

## 野球部の監督

2023.7.17

WBCでの日本選手の活躍や聖光学院高校野球部の部員数などを見ると、野球熱が高いように思える。ところが、生徒数減少の影響もあり、9人の部員がそろわず合同チームが増えているのが、中学校と県立高校の実情である。

そんな中、わが野田中学校野球部には、毎年元気な部員が入ってくる。今年の1年生は11人もいる。その学年だけでもチームがつくれる。部員が多いと、それだけで活気が出てくる。部員はそろっている。あとは指導者が必要である。

幸いにも、技能主査のMさんは、野球経験者である。昨年度からずっと、野球部の指導にあたっている。昨年度の顧問は、まだ3年目の若い教員だった。この先生がすごかった。生徒以上に、よく声を出す人だった。声を出すことをほめたことがある。すると「私には、これしかできませんから」と返ってきた。技術指導は、Mさんに任せて、それ以外のことを実によくやってくれた。今は、新たな学校で活躍中である。

今年度になり、野球部の顧問をどうしようかと考えていたところに、ずっと野球部の顧問をしているベテランの先生が来てくれた。野球部には追い風が吹いている。指導者が2人になった。

Mさんの日頃の仕事ぶりはというと、誠実である。本校の敷地内には、季節により、綺麗な花が咲いている。Mさんのおかげである。本校のホームページを開くと、トップページに黄色い花々や赤い花々と校舎の写真が出てくる。Mさんの作品であり、仕事ぶりである。本校の素敵な庭は、Mさんそのものである。

野球部の指導は、Mさんに任せてある。できる人がいるのに、活用しないのはもったいない。あれだけの野球少年がそろっているのである。Mさんの出番である。

野球の試合を見るのは、おもしろいが、辛い。勝てればいいのだが、負けるときもある。野球では、監督の采配というものがある。試合の流れがきているときはいいが、なかなか流れがこないときがある。あと1本が、どうしても出ない試合がある。選手は一生懸命プレーをしている。監督は辛いだろうなと思う。見ている方も辛い。だが、これが野球の監督である。

私は、野球部の監督をMさんに任せた。彼は、誠実かつ謙虚である。彼に任せるのがベストである。それで負けるのであれば、仕方がない。新チームからは、ベテランの先生が監督を務めるようになる。Mさんには、引き続き、技術面での指導を中心をお願いしたい。一つの区切りとして、Mさんには、お礼を言いたい。「今までお疲れ様でした。野球部は、Mさんの指導を受けることができて幸せだったと思います。ありがとうございました」